

令和5年度 一年間の教育・保育に対する自己評価

ゆたか第二保育園

たんぽぽ組

月齢が異なるため、離乳や歩行、睡眠の安定を個々にあったやり方で過ごすことができた。スキンシップを多くとり安心できる空間をつくることができた。活発な動きが多くみられたので怪我のないよう見守り、楽しめるよう工夫した遊びを行った。

ちゅうりっぷ組

身のまわりのことに興味を示し自分でやろうとする意欲を大切にするように保育した。発達の違いによる保育の難しさを改めて実感した。一人ひとりをよく観察し、その子に合わせて保育をしていきたいと思った。

ばら組

初めは、その場に適した言い方や、一人一人にあった言葉がけを見つけ出すことが難しく、戸惑うことや、適切な指導をスムーズに行う事ができませんでした。ですが、その都度、アドバイスをいただいたり、一人一人に合った声掛けをまねしてみたりした所、良い保育ができていると実感しました。日を重ねるごとに子どもたちとの信頼関係を築くことができ、嬉しく思いました。

ゆり組

登園児の身支度、衣服の着脱、脱いだ衣服を畳む、手洗いうがいなどの基本的な生活習慣は身につけ進んで行う事ができていたが、ペースがゆっくりな子が多かったので声かけを行った。感じたことや自分の要求を自分なりの方法で保育教諭に表現する事ができていたが、友達に自分の思いを伝えるのが難しい事も多く、保育教諭が仲立ちをし、伝える事で仲良く遊んだり、共に園生活を送る事が出来た。

さくら組

身の回りの支度に時間がかかり、遅れをとる事もあったが時間設定をする事で時計を意識しながら行動するようになり、時間内に済ませられるようになった。遊びの際中トラブルになるとすぐ保育教諭へ伝えに来ていたが子ども達同士でどうすれば仲良く過ごせるか考えるよう促し、互いの気持ちを伝え合えるようその都度対応した。行事等で行う遊戯練習は積極的に楽しんでいた。

すみれ組

一年間を通して、友達との仲が良く、大きなトラブル等はなかったが、仲が良く、ふざけすぎてしまうこともあり、特定の子での言い合いもあった。仲介をしながらお互いの意見を聞くようにした。就学の意識に向けるのも早かった為、少しずつ話をしていき、気持ちを高められるようにした。集団遊びを多く取り入れ、ルール理解など分かり合えるようにした。